

耳の不自由な人の不安解消へ

「振動呼び出し器」導入を



県聴覚障害者の会 県内病院に呼び掛け

病院受付での呼び出しや案内が分からないという耳の不自由な人の悩みを解消しようと、県聴覚障害者の医療を考える会(村田稔会長)は、県内の病院に、無線の送・受信機がセットになった「振動呼び出し器」の備え付けを呼び掛けている。既に導入している新潟市民病院、富山通信病院に加え、済生会高岡病院が要請に応じて六月から使い始めた。同会は今後さらに病院や医療団体に訴えていく考えだ。

済生会高岡 などで既に使用

同会は昨年四月、県ろうあ福祉協会と県手話通訳問題研究会の会員らが結成。同七月に県ろうあ福祉協会の会員二百二十三人にアンケートした結果、「病院で困ったことがある」と答えた人が六〇割にも上った。「名前を呼ばれても分から

なかった」というケースが最も多く、「返事をしなかつたら順番を後回しにされた」「自分より後に来た人が席を立ち、不安になった」と答えた人もいた。こうした不便さや不安感を取り除くため、同会は今年から各病院に呼び出し器設置を要望していくことにした。今年五月に済生会高岡病院に持ち掛けたところ、同病院はすぐに呼

び出し器三組を購入し、六月から受付に置いた。耳の不自由な人やお年寄りに貸し出し、診察や会計の順番を知らせている。
加藤弘巳副院長は「耳の不自由な患者さんは家族が付き添ってくることが多いが、自分一人でも安心して通院できる態勢づくりの第一歩にしたい」と話す。
新潟市民病院と同市役所は市心身障害者連絡協議会の要望で昨年一月から備え付け、市役所は呼び出し器のない病院に行くときなどにも貸し出している。富山通信病院は二年前から置いている。聴覚障害者の中には呼び出されて分からないだけでなく、医師とコミュニケーションがうまくとれなくて悩む人もいる。全国では、病院独自に手話通訳者を置くケースが数例あるが、県内にはまだない。
同会事務局の木下宏美さんは「聴覚障害者を取り巻く現状をまず知ってもらい、病院としてできることに協力してほしい」と話している。

受け取る患者
●済生会高岡病院

聴覚障がいはい「見えない障がい」です。不便なこと、改善してほしいことなどを行政、議会、施設、交通機関などに要望していただければ嬉しいです。

「動かないと何も変わらない」のです。詳しくは下記にお問い合わせください。

【情報提供】ベターコミュニケーション研究会、聴覚障がいに関わる総合情報誌「いくお〜」編集部

URL: <http://www.bcs33.com> E-mail: equal@bcs33.com FAX: 03-3382-6565